

口は健康のもと Vol.180

認知症と歯科治療 症状に応じて対策

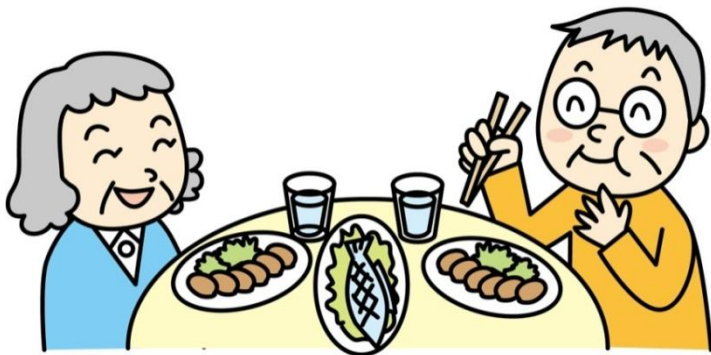
認知症が重度になると入れ歯を捨てる、食べなくなる、詰め込み食べにより窒息するなどの問題が出てきます。

認知症が軽度で簡単な指示に従えるのであれば、悪いところは可及的に治療します。ブリッジ(歯がない部分を補う被せ物)や入れ歯の形が複雑で、本人や介助者による口腔ケアが難しい場合は、清掃しやすいように単純な形のものにかえることもあります。

一方、認知症が重度で簡単な指示にも従えず、拒否が強い場合は、応急処置にとどめます。入れ歯を飲み込む危険性が高い場合は、外したままにして柔らかい食べ物に変更するように指示することもあります。認知症の症状が進行する前に早めに歯科で診察してもらうことが重要です。

認知症で食べなくなった場合は、①口の中の痛みで食べない場合(要歯科治療)と、②食べ方がわからなくなった場合(要食事介助)といったように、原因に応じて対策を立てます。また、詰め込み食べの場合には小分けして食事を提供する、一口量が少なくなるようにスプーンを小さくする、声かけで食事のペースを調整するなどの対応が必要となります。

要介護の認知症高齢者に対しては、訪問歯科治療による対応も可能です。ぜひご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院

地域医療支援歯科 准教授 鈴木 史彦

